平成２７年度

モデル校における English Time 授業案

学校名：玉城町立外城田小学校

実施学年	第４学年
単元名	Lesson 9 What would you like? 「ランチメニューを作ろう」(Hi,friends!1)

本時の目標	・欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。 ・レゴブロックを使った活動を通じて、身近な料理の英語表現に触れることができる。
準備物	レゴブロック、ピクチャーカード、Joy Joy MIEnglish の CD、Phonics の DVD

＜本時の流れ＞

学習活動	教師の支援・留意点
1　Joy Joy MIEnglish で英語の発音を練習する。（４．Section 1）	・大きな声で練習するように声をかける。 ・ALT の発音をよく聞き、口の開け方や抑揚の付け方に注意させる。
2　Phonics の練習をする。２人１組になってアルファベット体操をする。Phonics Alphabet を練習する。	・アルファベット体操をしながら発音の練習が出来るように大きな声を出すようにする。 ・テンポよく大きな声で言えるよう、JTE も一緒になり、楽しく英語を発音する雰囲気を作る。
3　本時のめあてを確認する。	

＜めあて＞
“What would you like?”“I’d like ~.” を使って、友だちに欲しい物を尋ねたり、自分が欲しい料理の注文をしたりする。

4　ピクチャーカードを使って料理の発音を確認する。(Joy Joy MIEnglish 23 Food を活用)	・日本語と英語の発音の違いに気付かせ、正しい発音ができるように ALT に最初に発音してもらい、続いて発音するようにする。
5　隣の友だちとウエイターとお客役に分かれ、“What would you like?” “I’d like ~.”を使って注文のやり取りを練習する。	・ALT と JTE が注文の仕方、答え方をデモンストレーションしてみせる。 ・聞き取りやすいようゆっくり発音したり、大きな声で発音したりする。

6　ウエイター役とお客役に分かれ、レゴブロックを使って実際に注文のやり取りをする。	・先週作っておいたレゴブロックを前のテーブルに用意し、それぞれのグループに注文用のピクチャーカードを配布する。 ・ALT と JTE がグループを回り、言い方や発音を忘れてしまった子は、一緒に言えるように声を掛ける。 ・ウエイター役をやった子はお客役になり、全員がそれぞれの役ができるようにする。
7　学習の振り返りを行う。	

＜まとめ＞
・“What would you like?”の問いかけに対して、“I'd like ~.”で答えることができた。
・自分の食べたいものを注文し、正しく伝えることができた。
・レゴブロックを使って、友だちや ALT とコミュニケーションを取りながら楽しむことができた。

＜成果と課題＞

（成果）
・何が好きかなどを尋ねる時には、“What”を使うことを理解し、使うことができた。
・自分の食べたいものを英語でどのように注文したらよいかがわかり、注文することができた。
・レゴブロックを使うことで、友だちとのコミュニケーションを図ることができ、活き活きと活動することができた。
・何度も繰り返し行うことで、注文する時などは丁寧な話し方をすることが理解でき、実際に使おうとする気持ちを持つことができた。

（課題）
・黒板に“What would you like?”と板書しなかったため、何度も繰り返したつもりだったが、“What do you like?”との違いに気付けない子がいた。丁寧な言葉との使い分けをしなければならないとはわかっていても、“would”と“do”の発音をきちんと使い分けられない子もいたため、その時間ごとの板書は必要だと感じた。
・何度も繰り返すうちに、日本語も交じってきてしまい、おさえが必要だった。今回の授業は Lesson 9 に入って３回目だったが、最初に「どうぞ」を“Here you are.”「ありがとう」を“Thank you.”などと自分から使っていた子を取り上げて全体に知らせたが、今回はおさえていなかったので、だんだんと日本語でのやり取りになってしまう子がいた。その都度のおさえは大切であると感じた。
・一つ一つの活動を教師が意識して繋げていくことができなかった。子どもの次の活動を意識して繋げていくことで、活動がばらばらにならず、子どもたちが何のために今の活動があるのかを自覚できればより成果につながっていくとわかった。